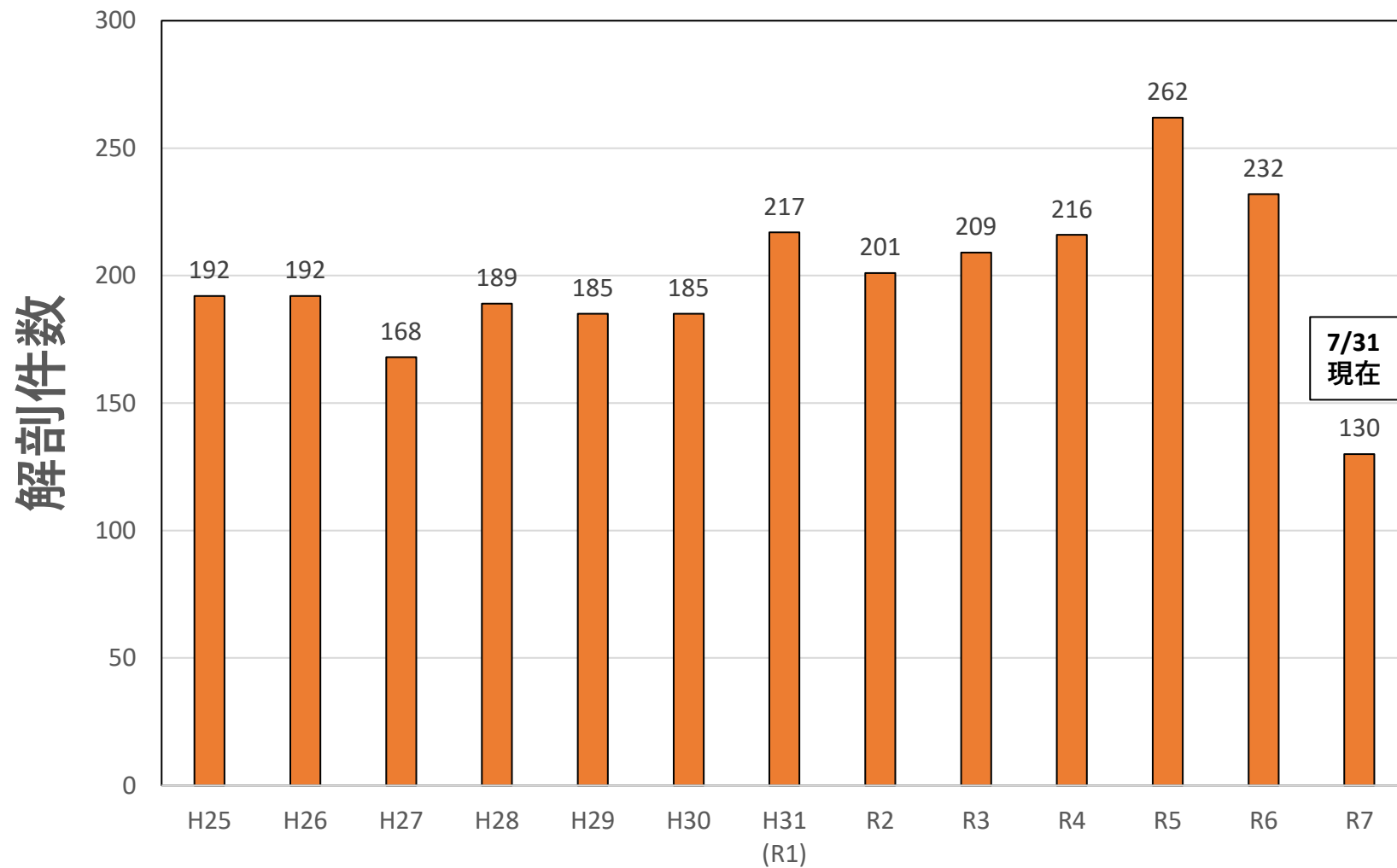


令和7年 法医学教室から

奈良県立医科大学法医学教室

奈良医大法医学教室における解剖数の推移



環境・設備の問題点

① 施設の老朽化・設備不足

- 冷暖房が効かない。熱中症対策が義務付けられたが対策のしようがない。
- カビだらけ。
- 給排水設備が常に故障状態。
- CTがない。
- 解剖台が1台しかない。解剖医が増えたとして、対応できる遺体数は変わらない。

② スペースの問題

- とにかく手狭。
- 分析装置を購入しようにも設置スペースがない。
- 人員を増やそうにもデスクを置く部屋が無い。

③ 解剖医

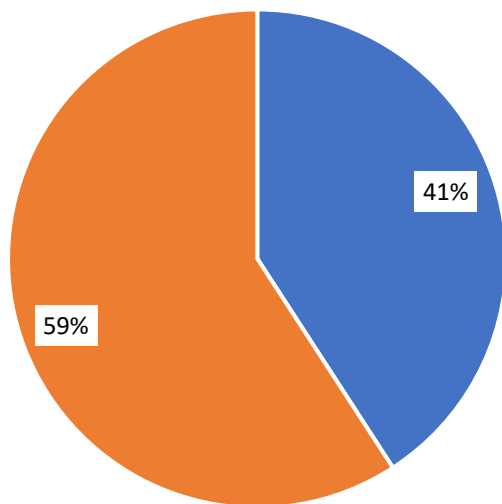
今春から1名助教増員。今秋の認定医試験受験予定。

孤独死について

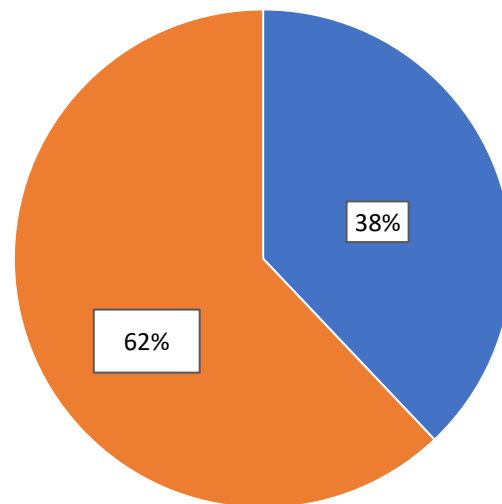
(次ページグラフ参照)

- 全解剖事例中、4割が自宅で、高度腐敗状態で発見された事例
→昨年と同程度。
- この中には、火災による高度焼損で身元不明になった事例や、屋外で高度腐敗で発見された事例は含まれない。
- これら自宅発見・高度腐敗事例のうち、半数が死因不詳とせざるを得ない→昨年より不詳事例が大幅増加。
- すなわち、年間解剖事例の2割程度が、自宅で死亡後に長期間放置されたために、死因不詳となってしまうている。
→死因統計に影響
- 孤独死を未然に防ぐ方策は無いかな？
- やむなく死亡した場合でも早期発見する方策は無いかな？

令和5年



令和6年



死因判明割合

■ 死因判明
■ 不詳

